

2026年2月15日(日)

# 降誕節第8主日

日本基督教団 大宮教会  
 大宮教会ビジョン  
 「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」  
 - 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -  
 (マタイによる福音書28:19~20)

## 朝第2礼拝 10:30~11:45

&lt;神の招き&gt;

前 奏 天にまします我らの父よ プクステフーデ

招きの詞 詩編47:2~7

交説詩編 125:1~5

讃美歌 4

&lt;神の言葉&gt;

聖書 詩編22:1~22

(旧約 聖書協会共同訳 837 頁)

マルコによる福音書15:33~34

(新約 聖書協会共同訳 94 頁)

祈 祷

讃美歌 55

説教 「離れないでください」

清水義尋牧師(岩槻教会)

祈 祷

黙 想

讃美歌 436

&lt;神への応答&gt;

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告

頌 栄 29

派遣と祝福

後 奏 イエスは我が喜び バッハ

## 朝第1礼拝 9:00~10:00

夕礼拝 18:00~19:00

&lt;神の招き&gt;

前 奏 ① 愛するイエスよ、我らここに集い バッハ

夕 義しき神、恵みの泉 バッハ

招きの詞 詩編47:2~7

交説詩編 125:1~5

讃美歌 10

&lt;神の言葉&gt;

聖書 詩編1:1~6

(旧約 聖書協会共同訳 820 頁)

ルカによる福音書6:20~26

(新約 聖書協会共同訳 111 頁)

祈 祷

讃美歌 90

説教 「幸福と災い」

佐藤潤伝道師

祈 祷

黙 想

讃美歌 579

&lt;神への応答&gt;

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告

頌 栄 26

派遣と祝福

後 奏

① イエスは我が喜び

バッハ

夕 モデラート イ短調

グッドワイン

## 今週の御言葉

これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになつたのですか」という意味である。

(マルコによる福音書15章34節b)

## 次週の礼拝(2月22日)

① 9:00、② 10:30

説教「招きにふさわしく歩む」佐藤潤伝道師

詩編100:1~5、

エフェソの信徒への手紙4:1~7

交説詩編91:1~13

讃美歌50、310、454、26

サテライトチャーチ植竹礼拝・夕礼拝

10:30、夕 18:00

説教「真理はあなたがたを自由にする」

熊江秀一牧師

創世記15:1~7、ヨハネによる福音書8:31~47

交説詩編91:1~13

讃美歌10、51、394、29

ワーシップ(讃美礼拝) 14:00~15:00

説教「天に宝を積もう」熊江秀一牧師、マタイによる福音書6:19~24

賛美:今こそキリストの愛に応えて、ここから、ワン・ボイス、慕い求めます、誰かが祈ってる、  
主の祈り、愛するイエスと、やさしいイエス様

**礼拝当番** ①8:30、②9:45、**夕**17:30 集合

**■今週の祈祷課題■** 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 灰の水曜日（レントに入る）の為に
4. 牧師・伝道師の為に
5. 関連幼稚園（大宮・植竹・白百合）の為に
6. 埼玉地区の諸教会・伝道所の為に
7. 関東改革長老会協議会の為に
8. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に
9. 病気の兄姉の為に

\***関東教区お祈りカレンダー** 熊谷教会 行田教会 愛泉教会

◇先週の説教より「主イエスは私たちのきょうだい」へブライ人への手紙2章10～13節、詩編22編20～32節 熊江秀一牧師

ここには私たちが神の家族として招かれている恵みと喜びが語られる。それは「きょうだい」イエスである。イエスは罪人である私たちを「恥」と思わず「きょうだい」と呼んで下さる。

なぜ、私たちは、イエスから「きょうだい」と呼んでいただけるのか。それが神の御業、神から出る計画だからである。

「一つの源」である父なる神から、「聖とする方」イエスも、「聖とされる人」私たちも出ている。だから主と私たちは「きょうだい」である。この主によつて私たちは「聖」（神のもの）とされ、神の特別の恵みを受ける。それは「きょうだい」イエスが私たちの「救いの導き手」だからである。「救いの導き手」はよい羊飼である主の姿である。また「救いの創始者」（新共同訳聖書）、「パイオニア」である。主イエスは苦難を通して、私たちのために救いを創り出し、

道を開拓して下さる長兄である。この主が開いて下さった救いが旧約聖書から語られる。

「きょうだい」イエスは、家族である私たちに神の名を告げ知らせ、集会の中で神を賛美する恵みを与えて下さった。この詩編（22編）は十字架の主の歌である。主を十字架にかけるほどに私たちを愛された神の名が告げ知られ、集会（教会）の中で賛美されるのである。

さらにイザヤ書8章を通して「わたしは神に信頼する」「見よ、私と神が私に与えて下さった子たちがいます」と宣言する。イザヤはそこに神の救いのしるしがあると言う。この姿は教会である。教会こそ神の名が告げ知られ、賛美される救いのしるしである。それはどんな時代も変わらない。

主イエスが私たちを「きょうだい」と呼んで下されることを喜び、救いの導き手である兄イエスに導かれて信仰の旅を歩もう。

\*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままでぞ。\*は祈祷当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、**夕**は夕礼拝。